
“ わん ” ダフルな世界

藍色草

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

“ わん ” ダフルな世界

【Nコード】

N 6 6 0 5 F

【作者名】

藍色草

【あらすじ】

バリバリ現役女子高生！な主人公は大の犬好き。そんな主人公が愛犬をかばってトラックに撥ねられてしまっ！？気がついたら知らない男が看病してて！？その上男は主人公の愛犬！！？？「ご主人」ラブな愛犬とそれを取り巻く愉快な仲間たち？の涙あり笑いありのどたばたコメディ連載です

プロローグ（前書き）

この小説は動物の擬人化・異世界トリップ等扱っておりますのでそのようなものが苦手な方はお引き取りください。

ブローグ

私の可愛い可愛い、天使のような存在・・・フェルデン。クリーム色のふわふわな毛。輝いた黒のつぶらな瞳。なでると動くその尻尾・・・！可愛すぎる！！！！

フェルデン、と呼ばばすぐ駆けってくる。そう、フェルデンは犬。一見マルチーズのようではあるが雑種で、家の近くの公園に捨てられていた。あの日は雨が降っていたから家につれてきたんだけど、二日三日一緒に居て愛が芽生えてしまった。表現がオーバー？そんなこと無い。だって私にとってフェルデンは家族でもあり、友達でもあり、恋人でもあるから。

今日もフェルデンと一緒に散歩。これは私とフェルデンの中では日常化されているものだが皆には驚かれる。別にいいじゃない、首輪やリードなんて。あんなもの、どうしても必要なのかわからない。ちゃんと愛情を注げば、気持ちを伝えようとすればいいじゃない。そう、ついさつきまでは思っていた。

「フェルデンッ」

キキーーッ

バンッ

「・・・ッッ」

クウーンと擦りついてきたフェルデンに大丈夫、と声をかける。一瞬のことだった。私が落としたキーホルダーを、フェルデンは取り

に行ったくれたのだ。けれどキーホルダーは道路まで転がっていて、気がついたときにはトラックがフェルデンに迫っていた。リードを付けておけば、と初めて後悔した。

大丈夫かい、と声をかけてくるトラックの運転手。いやいや、人を撥ねておいてそりや無いだろう、と心の中で文句を言う。はい、と返事をしようとしても声が出ない。目の前も真っ暗で何も見えない、音も聞こえなくなってきた。

死ぬのかな、と思った途端寒気がした。どうしよう、怖い。死が近づいてくるのが分かる。助けて、死にたくない。それに私が死んだらフェルデンは？世話は誰がするの？いや、それ以前にあの子はずっと私の帰りを待ち続けるだろう。他の人の用意した餌なんか食べないかもしれない。駄目、駄目・・・！！あの子のためにも死んではいけないのに！誰か助けて、誰か・・・！！！！

第一話

ああ・・・ここはどこだろう、一面真っ暗闇。天国かな？だといいいんだけど、地獄は・・・ちよっと勘弁。

フェルデン・・・ごめんね・・・。。もう、会えないの・・・。

「・・・い」

ん？何か聞こえた？・・・気のせいかな。

「おい、おい！」

ほええ！？誰、誰ですかああ！！？

「え、俺？フェルデンだ、ご主人。」

「！！・・・フェルデン、なの？じゃあ、これは神様が起こしてくれた奇跡なのね！！わあ、嬉しい！自分の犬と最後に会話できるなんて！！ああ、素敵！！！」

「おい、ご主人?! おきろよ、ご主人は生きてるんだぜ? なあなあ、おきろって!!」

「へ? 生きてるの? 私。 ってことは・・・これって夢? まあ、犬が話すわけ無いしね。」

「いやいや、残念ながら俺は話してるぜ? ご主人。」

「だから、これは夢だからでしょ? って痛つつ。」

ん、痛い・・・? だってこれは夢の中のはず。 うん、おきよう。 夢から覚める夢から覚める夢から覚める夢から覚める・・・

パチッ

ほら、夢だ。 生きててよかったあ。 で、さっきから気になってたんだけど。

「アンタ誰」

「反応おせえな」

「いやまじで誰? ココ病院じゃないし。 私はいったいどうなった訳

「？」

「先ずココは・・・病院じゃなくて、んー、いや病院・・・か？」

「はつきりしろよ」

「あ、ああ。じゃあ病院で。でどうなったっけか、死んだんだけど生き返った。」

「いや、あのつつこみたいんだけどさ、茶色の病室ってどーよ。」「そこか」・・・悪い？てゆーか死んで生き返ったとか嘘っしょ。ありえないじゃん。で、もう一度聞くけど誰？」

「だから、フェルデンだって！よく見てみるよ、髪の色とか、肌の色とか、目の色とか。」

えー・・・髪？クリーム色。・・・一緒だけどさ、偶然でしょ。肌は・・・って分かるかっ！！！！後は目かぁ。・・・このキュンと来る感じはフェルデンしか・・・。

「ってなに顔赤くしてんの。」

「だってご主人がじっと見つめてくるもんだから・・・。」

「いやいやいや・・・乙女な反応返されても。で、本題に戻るけど・・・フェルデン、会えてよかった。無事だったんだね。」

「ご主人・・・!!!ワンツ（大好き）」

「キヤアアアア!!その姿で飛びついてこないで!!!変態っ!!」

「（ガ、ガーン）へ、変態だなんて、ヒ、ヒデエ・・・。。。」

やっぱり、こんなのが私の^{マイ}天使だ^{エンジェル}なんて思えない・・・。

ああ、帰ってきて。可愛いフェルデン!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6605f/>

“ わん ” ダフルな世界

2010年10月28日06時31分発行